

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-----------------|-------------|---|--------------------------------------|-------------------|----------------|
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <p>『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(リサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用</p> | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>将来日本で就職することを目指し、選択問題だけでなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第1回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 実力を知る。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 模擬試験(N4~N2) | | | |
| 第2回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の考えをまとめ、わかりやすく説明できるようになる | 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版 第17課」 ～たきり、～ようでは、～。そのいっぽう(で)、～わけにはいかない | | | |
| 第3回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の考えをまとめ、わかりやすく説明できるようになる | 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版 第17課」 | | | |
| 第4回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1課 ことがらが説明できるようになる。 時間関係の言葉が使える。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 復習:N2文型の復習 文型:～が早いか、～や～や否や、～なり | | | |
| 第5回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1課 ことがらが説明できるようになる。 時間関係の言葉が使える。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:文型:～そばから、～てからというもの(のは)、～にあつて問題 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------------------------------|-------------------|
| 第6回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 2課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まり・限度 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前の課のチェックテスト 文型: ~を限りに、~をもって、~といったところだ | | |
| 第7回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 2課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まり・限度 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~ようとしている、~つつある、~つつ問題 | | |
| 第8回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 3課 ことがらが説明できるようになる。 限定・非限定・付加 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前の課のチェックテスト 文型: N2文型復習、~をおいて、~ならでは | | |
| 第9回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 3課 ことがらが説明できるようになる。 限定・非限定・付加 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 前の課のチェックテスト 文型: ~はおろか、~もさることながら問題 | | |
| 第10回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験をまとめ説明できるようになる。 | 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別中級から読み取る日本語 第20課」 ~わりには、~にあたり/あたっては、~に限らず、~にかけては | | |
| 第11回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験をまとめ説明できるようになる。 | 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別中級から読み取る日本語 第20課」 自分の知っていることをまとめてわかりやすく説明することができる。 | | |
| 第12回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 4課 ことがらが説明できるようになる。 例示の文 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: N2(やら、やら/というか、というか/にしても、にしても) ~なり~なり、~であれ~であれ | | |
| 第13回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 4課 ことがらが説明できるようになる。 範囲の始まりと終わり・その間の説明ができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~といい~といい、~といわず~といわず 問題 1-4課復習 | | |
| 第14回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 5課 ことがらが説明できるようになる。 関連、無関係に関するを表す語の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | N3、N2: によって、に応じて、にかかわらず、もかまわず ~いかなだ | | |
| 第15回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 5課 ことがらが説明できるようになる。 関連、無関係に関するを表す語の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~いかににかかわらず、~をものともせず(に)、~をよそに、~ならいざしらず 問題 | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | | |
|---|---------------------|--|---|---|-------------------|----------------|
| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <p>『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(リサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用</p> | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第16回 | 講義形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 6課 ことがらが説明できるようになる。 様子を表すN1の語彙の使い分けができる | 『新完全マスター N1』(スリーエー ネットワーク) | 予習、復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 文型 N2(～ようにする、～気味)、～んばかりだ、～とばかり (に)、～とばかり(に) | | | | |
| 第17回 | 講義形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 6課 ことがらが説明できるようになる。 様子を表すN1の語彙の使い分けができる | 『新完全マスター N1』(スリーエー ネットワーク) | 予習、復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 文型:～ともなく、～ともなしに、～ながらに(して)、～きらいがある 問題 | | | | |
| 第18回 | 講義形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 7課 ことがらが説明できるようになる。 付随行動を表す言葉が使える。 | 『新完全マスター N1』(スリーエー ネットワーク) | 予習、復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 文型:N2:～ついでに ～がてら、～かたがた、～かたわら、 問題 | | | | |
| 第19回 | 講義形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 読解文法 筆者が伝えたいことを読み取ることができるようになる | 『テーマ別上級で 学ぶ日本語三訂 版』(研究者)から 抜粋、ハンドアウト 使用 | 予習、復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第1課」 ～ことなく、～たところで、～限り(条件の範囲)、～ことはあっても (…ない) | | | | |
| 第20回 | 講義形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 読解文法 筆者が伝えたいことを読み取ることができるようになる | 『テーマ別上級で 学ぶ日本語三訂 版』(研究者)から 抜粋、ハンドアウト 使用 | 予習、復習 | |
| | 各コマに おける 授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第1課」 筆者が伝えたいことを読み取る | | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|---|-------------------------------------|-------------------|
| 第21回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 8課 主観を含めて説明する。 逆説の言葉を使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2(～にもかかわらず、～ものの、～ながら) ～ところを、～ものを | | |
| 第22回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 8課 主観を含めて説明する 逆説の言葉を使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～とはいえ、～といえども、～と思いきや | | |
| 第23回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1-8課 主観を含めて説明する 復習 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 1～8課までのN1の文型と似ているN2の文型の復習 | | |
| 第24回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 9課 主観を含めて説明する 条件を表す言葉の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2(～としたら、～ないことには、～ものなら) ～とあれば、～たら最後・～たが最後 | | |
| 第25回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 9課 主観を含めて説明する 条件を表す言葉の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～ようでは、～なしに(は)、～くらいなら 問題 | | |
| 第26回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 10課 主観を含めて説明する 逆説条件を表す言葉の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2(もし～としても、どんなに～としても、たとえ～であっても) ～ようとも・～ようが、～ようと～まいと・～ようが～まいが | | |
| 第27回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 10課 主観を含めて説明する 逆説条件を表す言葉の使い分けができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～であれ・～であろうと、～たところで、～ば～で・～なら～で・～たら～た | | |
| 第28回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 11課 主観を含めて説明する ～に関係なく、無視して | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～ないでvs～なくて、～を問わず、～にかかわらず、 | | |
| 第29回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 11課 主観を含めて説明する ～に関係なく、無視して | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～もかまわず、～はともかく、～はさておき 問題 | | |
| 第30回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験や思い出を思い出し、わかりやすく説明できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第2課」 それにしても、～ずにはいられない、～ないでもない、～からと言って～というものではない | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-----------------|-------------|---|-------------------------------------|-------------------|----------------|
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(リサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第31回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験や思い出を思い出し、わかりやすく説明できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第2課」 筆者の想いを読み取り、まとめて説明できる | | | |
| 第32回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 12課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2(～ものだから、～からには、～ばかりに) ～ばかりの復習 ～ばこそ | | | |
| 第33回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 12課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～とあって、～ではあるまいし、～手前、～ゆえ(に) | | | |
| 第34回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1課-12課の復習 主観を含めて説明できるようになる | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2,N1の文法復習 | | | |
| 第35回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 13課 主観を含めて説明できるようになる 可能、不可能、禁止についての言葉が使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: N2(～得る、～ようがない、～な) ～にかたたくない、～に～ない・～(よ)うにも～ない | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|-------------------------------------|-------------------|
| 第36回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 13課 主観を含めて説明できるようになる 可能、不可能、禁止についての言葉が使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~て(は)いられない、~べくもない、~べからず・~べからざる、~まじき | | |
| 第37回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 14課 主観を含めて説明できるようになる 話題、評価の基準の文型が使える。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(~といたら、~にしては、~にあって) ~ときたら、~ともなると・~ともなれば | | |
| 第38回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 14課 主観を含めて説明できるようになる 原因・理由のN2,N1の言葉が使えるようになる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~ともあろう、~たるもの(は)、~なりに問題 | | |
| 第39回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の考えをまとめ、説明できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第4課」 ~手前、~かと思えば、~といい~といい、~を余儀なくされる | | |
| 第40回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の考えをまとめ、説明できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第4課」 筆者の考えを読み取り、内容をまとめ説明できる。 | | |
| 第41回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 15課 主観を含めて説明できるようになる 比較、対象を表す文型 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(~に対して、~というより) ~にひきかえ、~にもまして、~ないまでも | | |
| 第42回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 16課 主観を含めて説明できるようになる 結末、最終の状態を表す文 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(~すえ、~ずじまい、~きり) ~至って・~至っても、~に至っては | | |
| 第43回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 16課 主観を含めて説明できるようになる 結末、最終の状態を表す文 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~始末だ、~ばなっただ 問題 1-16課の復習 | | |
| 第44回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 17課 主観を含めて説明できるようになる 強調を表す文 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(~こそ、~として、~さえ) ~たりとも…ない、~すら、 | | |
| 第45回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 17課 主観を含めて説明できるようになる 強調を表す文 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型: ~だに、~にして、~あつての、~からある・~からする・~からの 問題 | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|--|-----------------|-------------|--|-------------------------------------|-------------------|----------------|
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(リサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 将来日本で就職することを目標に、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第46回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 1課-17課の復習 主観を含めて説明できるようになる | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2、N1の文法復習 13-17課を重点的に | | | |
| 第47回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の国と日本との違いについて説明できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第7課」 ～とは、～以上は、～だけのことはある、～(よ)うが | | | |
| 第48回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の国と日本との違いについて説明できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第7課」 筆者の背景を考え、話をまとめて説明できる。 | | | |
| 第49回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 18課 主観述べる文型が理解できる。 主張、断定を表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(～べき、～というものだ、～にほかならない) ～までもない、～までだ・～までのことだ | | | |
| 第50回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 18課 主観述べる文型が理解できる。 主張、断定を表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～ばそれまでだ、～には当たらない、～でなくてなんだろう(か) 問題 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|--------------------------|-------------------|
| 第51回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 19課 主観述べる文型が理解できる。 評価、感想を表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(～にほかならない、～に堪える/～に堪えない) | | |
| 第52回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 19課 主観述べる文型が理解できる。 評価、感想を表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～といったらない、～かぎりだ、～に極まる・～極まりない、～とは問題 | | |
| 第53回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 20課 主観述べる文型が理解できる。 心情、強制的思いを表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:N2復習(～でならない、～ずにはいられない、～ざるを得ない)、～てやまない、～に堪えない | | |
| 第54回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 20課 主観述べる文型が理解できる。 心情・強制的思いを表す文を表す文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 文型:～ないではすまない・～ずにはすまない、～ないではおかない・～ずにはおかない、～を禁じ得ない、～を余儀なくされる・～を余儀なくさせる問題 | | |
| 第55回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(1) A動詞の意味に着目し、もとの言葉の意味から類推することができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「相まつ」「押す」「かこつける」「兼ねる」など | | |
| 第56回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(2) B動詞の意味に着目し、もとの言葉の意味から類推することができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「至る」「かなう」「忍ぶ」「恥じる」「はばかり」など | | |
| 第57回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(3) C古い言葉、もとの言葉の意味から類推することができる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「～ず」「～べし」「～まい」「～ごとし」など | | |
| 第58回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(4) D形式名詞「もの」、「こと」、「ところ」を使った文法がわかる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「～ないものでもない」「～ものと思う」、「～をいいことに」、「～したところで」 | | |
| 第59回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(5) E 同じ言葉、対の言葉、同類の言葉を重ねて使う文法がわかる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「～つ…つ」、「～ては、…ては」、「～かれ…かれ」など | | |
| 第60回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(6) F 助詞、複合助詞を使った文型が理解できる。 | 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク) | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「～にして」、「～とて」、「～より」など | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-----------------|-----------------|---|------------------------|-----------------------|----------------|
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験と その関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。 | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。 | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(Jリサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。 | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 将来日本で就職することを目指し、選択問題だけでなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。 | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習 の具体的な内容 | |
| 第61回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(7) G 文を作る時に制約がある文型を身につける。 | 「新完全マスターN1」スリーエーネットワーク | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | ・事実か、気持が入っているか。 ・自分か他者か。 ・プラスイメージか、マイナスイメージか。 | | | |
| 第62回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(8) | 「新完全マスターN1」スリーエーネットワーク | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | | |
| 第63回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(9) | 「完全模試N1」Jリサーチ | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | | |
| 第64回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(10) | 「完全模試N1」Jリサーチ | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | | |
| 第65回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(11) | 「完全模試N1」Jリサーチ | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|-------------|--|-------------------------------------|-------------------|
| 第66回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(12) | 「完全模試N1」Jリサーチ | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | |
| 第67回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 日本語能力試験対策(13) | 「完全模試N1」Jリサーチ | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 実践問題 | | |
| 第68回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の国のおすすめを紹介できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第8課」 ～かいがある、～をよそに、～てなるものか、～もさることながら | | |
| 第69回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の国のおすすめを紹介できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第8課」 筆者の考えを理解し、自分の意見をまとめ説明できる | | |
| 第70回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、発表できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第9課」 まして～なら/ば/たら、～にもほどがある/～(よ)うが～(よ)うが、 ～(わけ)では/じゃあるまいし | | |
| 第71回 | 実習形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、発表できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第9課」 筆者が言いたいことをまとめ、具体的に説明できる。 | | |
| 第72回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験から自分の考えをまとめ発表できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第10課」 ～やら～やら、～せい、～始末だ、～にしたところで | | |
| 第73回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の経験から自分の考えをまとめ発表できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第10課」 話を読んで、わかりやすくまとめ説明できる。 | | |
| 第74回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、グループで共有できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第11課」 ～(よ)うものなら、～ないまでも、～とばかりに、～まで | | |
| 第75回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 あるテーマについて、自分の考えをまとめ、グループで共有できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第11課」 あるテーマに関して、自分の意見をまとめて、説明できる。 | | |

2026 年度 授業計画(シラバス)

| 学 科 | 日本語学科(昼間部1.5年制) | | 科目区分 | 基礎分野 | 授業の方法 | 講義 |
|---|-----------------|-------------|--|-------------------------------------|-------------------|----------------|
| 科目名 | 文法(上級) | | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 160 (8) 時間(単位) |
| 対象学年 | 1年 | | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 501教室 |
| 担当教員 | 松下修、井上礼子 | 実務経験とその関連資格 | 【松下】2013年日本語教員養成講座を修了。3年間、日本語教育機関での入管申請業務及び生活指導に従事。 | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | | |
| <p>将来日本での就職を見据え、選択肢に頼らず答えが導き出せるように短文作成や、既習文型との対比、接続にもポイントを置き、日本語能力試験N1合格を目指す。試験後は中文、長文を読み、意見をまとめ、それを自分の言葉に変えて分かりやすく説明する、意見を言うなど総合的な日本語力を身につけることを目標とする。読解文法では文型理解のみならず、全体の流れから読み取る力を身につける。</p> | | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | | |
| <p>1. 定期試験:70% 2. 宿題提出:20% 3. チェックテスト:10% 成績評価基準のさらなる評価については授業中に指示する。</p> | | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | | |
| <p>『新完全マスターN1』(スリーエーネットワーク)、『日本語能力試験N1 完全模試』(リサーチ) 『ドリル&ドリルN1文法(ユニコム)』 『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別中級から学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)、『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版ワークブック』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用</p> | | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | | |
| <p>授業前に本文を一読し、わからない語彙は調べておくこと。 授業後は復習をすること、次の授業の最初に毎回チェックテストを課す。 週末にも宿題を課す。読解文法では事前に内容と関係する記事などを調べてくるような宿題も課す。</p> | | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | | |
| <p>将来日本で就職することを目指し、選択問題だけではなく、短文作成や、既習文型との対比や接続などにもポイントを置き、運用力を重視した授業を行う。読解文法では全体の流れをつかみ、文型理解のみならず、総合力が身につけてほしい。</p> | | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 | |
| 第76回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の将来を考え、発表できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第13課」 ～(か)のごとし、～ときたら、～ともなると、～にすぎない | | | |
| 第77回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 自分の将来を考え、発表できるようになる | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第13課」 文章を読み、話を短くわかりやすくまとめることができる | | | |
| 第78回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 身近なものを紹介できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第14課」 ～(た)拍子に、～に限って、～ても～切れない、～次第(すぐ) | | | |
| 第79回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 身近なものを紹介できるようになる。 | 『テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版』(研究者)から抜粋、ハンドアウト使用 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 「テーマ別上級で学ぶ日本語三訂版 第14課」 きたえる:文章を読み、話を短くまとめることができる | | | |
| 第80回 | 講義形式 | 授業を通じての到達目標 | 読解文法 生教材(新聞)の記事を読む | 生教材 「新聞」 | 予習、復習 | |
| | | 各コマにおける授業予定 | 働き方、高齢化社会、健康・医療に関する分野 | | | |